

マネを「マネ」たアマチュア画家

趣味で玄人はだしの絵を描く友人がいる。昔から家庭や、仕事の合間にもキャンバスに向かって得意の絵筆を揮っていた。描き上げた作品も数多く、それらの佳作を自らのギャラリーと称してホームページ上に公開している。

その友人がこのほどモスクワへスケッチ旅行に出かけ、思いがけず長年の願いが叶った絵を描けたと些か得意そうに、また照れくさそうに話してくれた。それも限られたごく短い時間内に超特急で慌ただしく描いたという。だが、こればかりは公開できないとコピーをそっと見せてくれた。

友人にとってこれまで一度は描いてみたいと思っていた画材ではあったが、照れ性の自分にはとてもそんな大胆な勇氣はないと諦めていた。そんな彼が旅先のモスクワでつい気が緩んだのか、はたまた魔が差したのか、大胆なことをやってのけた。

ホテル前で外国人観光客に流し目を送っていたその筋の女らしい、肉感的な若い女性のウィンクに火花が散り、ハタと思い当たったという。ダメもとと割り切った友人は、件の女に声をかけて交渉を成立させ、ホテルの自室内に女を招き入れた。女も思いも寄らぬ申し出に驚いたようだが、友人の希望に応じてくれた。ロシア人女性を裸にしてベッドに寝かせ、約束の1時間内に急ピッチで絵筆を走らせ、あっという間にデッサンを完成させた。

女が去った部屋にはエドゥアール・マネの名画「オランピア」？が残されていた。「草上の昼食」「笛を吹く少年」と並ぶ印象派画家マネの3大傑作のひとつである。150年ぶりに日本人画家とロシア人「オランピア」の協力によって名画「オランピア」が複製されたのである。原画にあった存在感ある黒人メイドの姿こそないものの、ベッドから裸身のロシア人「オランピア」が意味ありげにじっとこちらを見つめている。友人の言葉を借りるなら、「もう少し若ければこうは行かなかっただろう」と・・・。